

2023 年度事業計画

(2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

1 本部

(1) 総会・理事会の開催 (予定)

- ・ 第 1 回理事会 : 2 月 11 日 (土) <オンライン=L> 「決算など」
- ・ 定時総会 : 3 月 10 日 (金) <L>
- ・ 第 2 回理事会 : 3 月 10 日 (金) <L> 「役員分担など」
- ・ 第 3 回理事会 : 9 月 29 日 (金) <リアル=R> 「収支中間報告など」
- ・ 第 4 回理事会 : 12 月 9 日 (土) <L> 「次年度予算など」

(2) 刊行物・電子メディア等での発信

- ・ 会報
第 60 号 8 月発行 (定期) 内容未定。夏までに原稿受け付け
※ 上記は、訂正のように予定を繰り下げる
- ・ 会誌
2023 年度 11 月発行 (定期)
- ・ ウェブサイト
同窓会ウェブサイトの「News」を中心に日常的な発信を強化する。母校の学生目線の発信、静止画と動画を増やすなどよりビジュアルな発信に注力する。支部を含め、広く会員の投稿も積極的に推進する。
- ・ マスメディア
今後とも、重要案件等をマスメディアに対し、積極的に情報提供していく。
- ・ 発信体制
「さっぽろ農学校リポーター」制度は、現在のリポーター 2 名体制をさらに拡充し、学年や学科にさらに広がりを目指し、リポーターの業務が年代を超えて持続可能なかたちをつくっていく。

(3) 交流・親睦事業

- ・ 新年交礼会（例年1月開催）は、2022年は中止だったが、23年は未定である。開催の場合は支援する。
- ・ 新入会員歓迎会（卒業祝賀会）＝例年3月開催＝は、2022年中止、2023年未定。開催の場合は支援する。
- ・ 2023年は春のアルムニレクチャーを4月に開催する方向で検討。東京支部と関西支部から会員を招聘する。
- ・ 学生会員制度が発足した場合は、学生全体を対象に、「新入会員ガイダンス」を初めて開催することを検討し、準備する。学年別開催も検討。
- ・ 理事・代議員集会（昨年は9月開催）は、6月23日（金）午後開催する。
- ・ 親睦園遊会（例年6月開催）は、6月23日（金）夕に開催する。
- ・ 第1回遠友夏学校を6月24日（土）午前に開催する。
※ 上記3事業は、訂正のように予定を繰り上げて開催予定
- ・ 理事懇談会と元教授の会（例年9月開催）は、北大ホームカミングデーの前日、9月29日（金）の開催を想定する。
- ・ 市民公開特別講演会「新渡戸・SDGs」の開催を9月30日（土）午後想定する。

(4) 母校への助成

農学研究院・農学院・農学部への助成を行う。

このほか、卒業・修了生用学位記ケース助成、クラーク農学賞図書券助成、外国人留学生交流会助成など、必要な事業に対して助成を行う。

(5) 学会開催等への助成

学会開催助成については、総会までに助成対象を決定する。

(6) 農業農学振興事業等への参画・助成

- ・ 親子食農体験講座「あぐり大学」（原則奇数月）と市民公開講座「時計台サロン」（原則偶数月開催）などを展開している農学部・北海道新聞編集局連携事業には、引き続き、実行委員会への参加、各種助成等などを行

う。

- ・ 当会主催の「出張時計台サロン」は、道民カレッジの連携講座に登録し、講師料も定額であることから、道民への周知を積極的に行う。北海道銀行が全営業店舗での映像資料放映の機会を提供してくれたことから、これを積極的に活用していく。

(7) 農学生緊急支援

学生院生たちの生活とバイト環境はいまだ厳しい状況が続いている。新型コロナウイルス感染拡大に伴う生活困窮に苦しむ農学生をサポートしようと、2020年5月から取り組んでいる農学生緊急支援プロジェクトについては、今後とも、カンパや関連広告（会報等）を受け付け、必要に応じて、農学生たちへの生活支援金支給、緊急バイト雇用、バイト情報提供などを行っていく。

会員諸氏と市民からの緊急支援カンパは目的指定寄付で、特別会計扱いであるが、取り組み内容によっては、一般会計からの支出も検討する。

(8) 同窓会メディア拡充

ウイルス感染対策上も、オンライン会議への対応、電子メディアへの対応の幅拡充が求められていること、学生を含むより若い層への情報提供が一層求められていることから、同窓会メディアの拡充を進める。

また、母校と同窓会、農学を知るのに役立つ情報を紙でも提供することが求められていることから、冊子やブックレットの発行にも注力する。

この事業は、上記緊急支援特別会計により雇用された「さっぽろ農学校サポーター」たちの力を借りて進めていく。

(9) 「新渡戸プロジェクト」への協力

新渡戸稲造先輩（1881＝明治14＝年卒業）が遠友夜学校を開いた土地（現在の新渡戸稲造記念公園＝中央区南4東4）に、「新渡戸稲造遠友館」（仮称）を建設する運動が、一般社団法人「新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会」を中心に進められており、母校北大も、同館を大学サテライトとして、またSDGsを目指す北大のシンボルとして位置づけ、北大創基150周年記念事業の「応援事業」に指定した。建築設計や建材への研究林木材の提供などを進めている。

この運動はまた、北海道と札幌市、JA北海道グループや北海道商工会議所連合会など経済界と自治体の参画と強い関心の下に広がりを見せしており、同窓会としては、建設及び施設運営、事業展開を含む運動全体を支えるべく、

全面的に連携、協力していく。

(10) 「北大創基 150 年貢献プロジェクト」の検討

北海道大学は 2026 年に創基（開学）150 周年を迎えることから、その記念事業を検討・準備している。その中で、「エルムの森プロジェクト」が位置づけられている。

そうした中で、当会としては、農学部らしい、かつ農学同窓会らしい事業に取り組もうと、札幌農学校以来の歴史的に重要な資料を発掘・整理・保存する「お宝発掘プロジェクト」と、それらをHP上の「お宝アーカイブス」に掲載する電子アーカイブス化、またそれらを利用した展示会開催や書籍出版などを通して「150 年」を祝い、考え、発信する企画の検討を進める。

具体的には、農学部園芸学講座の図書室に眠っていた「植物画」、同窓会事務所書庫に保存されていた「札幌同窓会報告」、モデルバーンの一角に保存されていた「動物画」などが対象で、そのほかにも会員から会に寄せられるさまざまな貴重なお宝や関連情報も対象とする。

2 東京支部

新型コロナウイルス感染の状況を見極めながら、札幌農学同窓会東京支部は会員相互の交流及び知識の向上を図るため、2023 年度において次の事業を行う。

(1) 通常総会の開催

2023 年 2 月下旬、コロナウイルス感染状況に応じ、対面方式、オンライン（Zoom）方式、ハイブリッド（対面・オンライン併用）方式により開催の予定。

(2) 理事会の開催

2023 年 1 月下旬、オンライン（Zoom）会議により第 1 回理事会を開催の予定。オンライン方式の開催を基本に概ね 2 ヶ月毎に適宜開催する。

(3) 講演会の開催

会員への情報提供の機会として、時宜に適したテーマによる講演会を実施する。

1) 例年 2 月下旬の東京支部通常総会後に講演会を行っているが、2023 年

度は総会の開催方法と同様、コロナウイルス感染状況に応じ、対面方式、オンライン（Zoom）方式、ハイブリッド（対面・オンライン併用）方式により講演会を開催する。

講師については、農学部の現状についてお話しいただける先生方を基本に選定中。

2) 秋季に時宜に相応しいテーマで獣医学部同窓会との共催講演会を実施する。

3) 上記、総会時・秋季講演会に加え、講師（大学関係に加え東京支部会員を積極的に選定）、演題、時期等を勘案し、オンライン開催を基本に適宜講演会を実施する。

(4) 「女性同窓生オンラインお茶会」の開催

2022 年度と同様に女性会員向けの行事として継続し、適宜の間隔で開催する。

(5) 修了・卒業祝賀会への支部代表の派遣

修了・卒業祝賀会が開催される場合、東京支部代表を派遣する。

(6) 関西支部主催「市民公開フォーラム」への支部役員派遣

毎年6月開催の「市民公開フォーラム」に東京支部役員を派遣する。

(7) 「札幌アルムニレクチャー」への講師派遣

北大農学研究院主催「札幌アルムニレクチャー」について、派遣要請に従い東京支部代表の講師を人選する。

(8) 英文 Bushido 等の寄贈活動

農学部に進学する「新渡戸カレッジ」の学生および院生（合計約30名）を対象として、新渡戸稲造の世界的な名著である「Bushido」、内村鑑三の「代表的日本人」「後世への最大遺物」を寄贈する。

(9) 札幌農学校普及委員会の活動

「札幌農学校」出版助成・普及頒布事業として、入学・進学時の学生、院生を対象として毎年4月に一括寄贈し、今後も同著書の普及頒布活動を継続していく。

(10) 企画・交流委員会の活動

講演会等の企画、講師候補者の選定、支部代表の派遣候補者を検討するとともに支部活動の活性化は若手会員の増加が基本との考えに立って、特に平成卒会員と女性会員の拡充を図るよう、継続して東京同窓会等主催の各種行事の機会を利用して勧誘していくことに加え、農学部の特徴を生かした新規行事の企画を検討する。

(11) 情報委員会の活動

東京同窓会情報処理委員会と引き続き連携を図り、札幌農学同窓会東京支部ホームページの充実を図る。また、新型コロナウイルスの影響で当面はオンラインでの行事開催や資料の電子化等、更なる IT 活用を進める必要がある為、適切な運用体制の構築を図っていく。さらに、引き続き行事案内等を利用して東京支部会員のメールアドレス登録数の拡大を目指し、郵便からメールマガジン配信への転換を順次進めていくとともに、会員名簿整備のため本部情報担当理事との連携を強化する。

(12) 会員名簿の整備

東京支部会員について行事案内ハガキによる移動・消息の把握に努め、「札幌農学同窓会員名簿」の正確性の向上に努める。

(13) 懇親会

総会、講演会等の対面方式が可能な場合、その開催の機会を利用し懇親会を行う。

(14) 会員交流サロンの設置

札幌農学同窓会東京支部会員が自由に参加し、情報交換、意見交換を行う場として、「会員交流サロン」をオンラインで設置する。

(15) その他

他の各種関係団体との連携を図る。

3 関西支部

(1) 通常総会の開催

2023年2月18日（土）に大阪ガーデンパレスにおいて通常総会を開催す

る。新型コロナウイルス感染状況による行政指導が行われた場合は、オンライン総会、または委任総会として実施する。

(2) 講演会の開催

- ・ 春季講演会は2月18日の通常総会に合わせて実施する。講師は山口 昭氏 (S39年農経卒・関西支部理事) で演題は「70歳からの創業」である。
- ・ 秋季講演会は、10月にホテル日航大阪にて行う。(内容は未定)
例年通り、北大関西同窓会の総会にあわせて開催する。

(3) 市民公開フォーラムの開催

第17回市民公開フォーラムは、6月17日(土)に「堺市立東文化会館」にて開催する。

メインテーマは北大のSDGsの取り組みに呼応する形で、「みんなで目指そう!持続可能な『食』と『環境』」とし、パネルディスカッションのテーマは「持続可能な『食』をめざして」とした。

来賓挨拶は、出倉功一近畿農政局長(S63年農学部農経卒)の予定。

近畿農政局、大阪府、堺市の後援をいただき、同窓生関連企業の参加と北大農学部、札幌農学同窓会本部のご協力のもと開催する。

(4) 理事会の開催

2023年度も毎月一回(8月を除く)理事会を開催し業務の遂行を行う。

(5) アルムニレクチャーへの講師派遣

北大農学研究院主催の「アルムニレクチャー」に講師を派遣する。

(6) 修了・卒業祝賀会への関西支部代表の派遣

修了・卒業祝賀会に関西支部代表を派遣し、本部とともに札幌農学同窓会会員入会促進を行う。

(7) 同窓会会費の納入促進と新入会員の参加促進

総会、市民公開フォーラム、講演会、懇親の場や案内状を送付するときを利用して、新規会員の勧誘と会費の納入促進を行う。また若年層や女性会員の参加を積極的に呼びかける。